

儒教・「性」・家族 ― 清朝中国と徳川日本

渡 辺 浩

1

東京女子大学はジェンダー教育に力を注いでいるという。そこで、東京女子大学に初めて出講する機会を得たこの授業では、ほぼ同時代にあたる清朝中国と徳川日本を対象とし、そこにおける様々な意味での「性」の社会的在り方といわゆる家族の構造について、比較しつつ論じることとした。そして、それらの説明は儒教の知識が前提となるため、まず儒教の教義を紹介することにした。それが、上記の表題の意味である。

授業は、学年暦に従って一三回実施した。そして、内容を、ひからびた抽象的知識として記憶するのではなく、現にこの世にかつて生きた実在の男女の人生にかかわるものとして実感をもって理解してもらおうための一助として、現物の文字史料や視覚的な史料を教室に持参し、それらに触り、見てもらうよう努めた（例えば、徳川時代の使い古された女子用教科書の実物を回覧した。その内の一冊には、端正な字で、

「幾久女 十六才」と末尾に書き込まれている。かつて、「きく」という名の少女の大事な持ち物だったのであろう。また、漢文や古文の引用を聞き取るのは困難なので、毎回、引用文などを印刷した資料を配付した。

2

授業の構成は、次の通りだった。

序章 主題の意味

第1章 儒学の思想

第2章 清朝中国における家族と社会…その基本構造

第3章 清朝中国における「女の一生」

第4章 徳川日本におけるイエと「家業道徳」

第5章 徳川日本における夫婦

第6章 徳川日本における「女の一生」

3

授業を進めながら感じたのは、学生よりも、学生以外の（多くは学生よりも年齢が上とお見受けする）聴講者の方が、概して授業への関心が高く、反応も敏感であることである。その一因は、授業内容を、御自身の人生経験と照らし合わせて考えることが、相対的に容易だったというところであろう（逆に、例えば清朝中国において姑が媳（日本でいう嫁）に対して持ったであろう複雑な気持ちや、核家族に育ったうら若い未婚者が追体験するのはどんなに難しいだろう）。

一般に、大学の学部教育が二〇歳前後の若者を主な相手としているのは、一面で当然である。社会に生き、そこに生きる人々の人生をよりましなものにしていくためには、その本格的な航海に旅立つ前にそれらについて学ぶことが必要だからである。しかし、逆に、社会に生き、人生を送ってきた事自体が、それらへの学問的探索に対する関心と理解を深めるという面もある。若さと経験の両立はなかなか難しい。そうであるとするば、学生のための授業が公開授業として外に開かれているという、本センターの公開授業の形式は、その両面に対応した優れた大学教育のモデルであるかもしれない。ただし、その優れた形式を活かすには、聴講者同士の感想や意見の交換がなされるよう、もっと配慮すべきだったと思われる。演習ではなく、講義形式であつ

4

たため、それがしにくかったのは事実だが、それを積極的に試みるべきだった——授業を終えて、特にその点を反省している。

授業の実施にあたっては、教育研究支援課の田中理恵さんはじめ、東京女子大学のスタッフの方々の懇切な支援を得た。深く感謝申し上げます。

東京女子大学「丸山眞男記念比較思想研究センター」公開授業のご案内

当センターでは2005年度から、丸山眞男並びに広く比較思想を講ずる科目を、新たに設置いたしました。「比較思想A」「比較思想B」「総合講座・比較思想A」「総合講座・比較思想B」の各科目（半期完結）ですが、2006年度はそのうちから「比較思想A」「比較思想B」を開講し、これを学部学生とともに学外の方々にも公開することになりました。

2006年度の前期は「『自由』の観念をめぐる比較思想史」（「比較思想A」）、後期は「儒教・『性』・家族 — 清朝中国と徳川日本」（「比較思想B」）を開講いたします。下記の要領にて受講者を募集いたしますので、ご案内いたします。

前期 2006年4月17日～2006年7月10日
毎週 月曜日 4時限目 14:55～16:25

後期 2006年9月29日～2007年1月19日（但し11/3、11/10、12/29、1/5は授業なし）
毎週 金曜日 5時限目 16:30～18:00

会場 東京女子大学

対象 原則として18歳以上の男女

定員 前後期各30名

受講料 前後期各10,000円

テキスト代等は含みません。なお、一度納入された費用は返却いたしませんので、ご了承下さい。

授業予定

前期 **「自由」の観念をめぐる比較思想史** 講師：宮村 治雄（成蹊大学教授）

日本語の「自由」には西洋語としての＜freedom＞や＜liberty＞の訳語という面のほかに、西洋との出会い以前からの中国思想や仏教思想のなかでの「自由」や「自在」との関連でもちいられてきた長い歴史がある。そうした歴史の中で、「自由」をめぐるさまざまな問いと応答とがどのようになされてきたのか、またそこから何を学べるのか、考えたい。

後期 **「儒教・『性』・家族 — 清朝中国と徳川日本** 講師：渡辺 浩（東京大学教授）

ほぼ同時代にあたる徳川時代の日本と清朝中国について、思想的・社会的に、両性関係・家族の在り方、そしてそれらと社会・国家との関係を、欧州との比較を交えつつ探る。「女」とは（「男」とは）何か、夫婦とは何か、家族とは何か、子供の教育はどうすべきか——これらの問いへの解答の種々相を紹介する。同様に儒教の影響下にあったように思われがちだが、実は両国の相違は大きく、しかも、欧州とも異なっていた。

- 【申込方法】 下記の申込用紙にご記入の上、教育研究支援課宛にご郵送下さい。
- 【結果通知】 受講の可否は、はがきでお知らせいたします。申し込み多数の場合は、抽選の上受講者を決定いたしますので、あらかじめご了承下さい。
- 【受講手続】 受講を認められた方は、10,000円の郵便為替を郵便局でお買い求めの上、教育研究支援課宛にご郵送下さい。
- なお、受講証は授業初日にお渡しいたしますので、結果通知はがきを当日会場にお持ち下さい。

	前 期	後 期
申込期間	2月1日(水)～ 3月10日(金) (必着)	7月3日(月)～ 8月4日(金) (必着)
結果通知	3月下旬	9月上旬頃
受講手続期間	4月7日(金)迄	9月15日(金)迄

問合せ・送付先： 〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1
 東京女子大学 教育研究支援課「公開授業」係
 TEL: 03-5382-6454 / 月～金・9時～17時(11:25～12:25を除く)

【ホームページ】 <http://office.twcu.ac.jp/support/index.html>

追 記：授業の単位は認定されませんので、あらかじめご承知おき下さい。

* 下記にご記入いただいた個人情報は、当該公開授業の運営にのみ利用いたします。

キリトリ

2006年度 前期

丸山眞男記念比較思想研究センター公開授業
受講申込書

ふりがな		男	女	才
氏名		女		才
住所	〒			
電話番号				
受講の動機				

前期申込 受付期間：2月1日～3月10日

2006年度 後期

丸山眞男記念比較思想研究センター公開授業
受講申込書

ふりがな		男	女	才
氏名		女		才
住所	〒			
電話番号				
受講の動機				

後期申込 受付期間：7月3日～8月4日

Y